

「一番大切なこと」

読谷小学校 五年三組 眞眞 英桜

「平和」ってなんだろう。「平和」になる
ために一番大切なことってなんだろう。私は
六月二十三日にそのことをずっし心の中で考
え続けていた。私は、学校での平和学習や戦
争経験のおじいちゃん、おばあちゃんの話を
いろいろなことをふりかえって見た。

六月十八日、キレイな青空のもと、友だち
みんなと歩いて、波平、高志保、都屋の慰霊
碑をおとすれ、戦争の話を聞いた。悲しい話
がたくさんあり、とても心がいたんだ。みん
なで歩き、学んだおかげで戦争がどれほどつ
らく、苦しいことなのかよくわかった。

私は、前に、おじいちゃんや、おばあちゃ
んから、戦争当時の話を聞いたことがある。
おじいちゃんの話では、おじいちゃんがまだ
小さいころ、家の庭に穴をほって壕を作り、
そこに、家族でかくれていたそうだった。おじい
ちゃん泣いて、そこで見つかなくてよかった。

けれど、そのおかげでほりよになり、食りよ
うやぬどこがあたえられてなんとか助ったそ
うだ。それを聞いた私は、ほった。なせ
なら、もしも亡くなっていたら、私も母もこ
の世に存在していなかったからだ。今のこの
命もなかったはずだ。少しずつ戦争のおそろ
しさが見えてくるような気がした。

おばあちゃんからも話を聞いた。おばあち
ゃんは、戦争の時、女学生だった。それで、
軍隊に集められて、読谷村と伊江島の飛行場

作りをしていったそうだ。昔は、機械も何にも
ないので、シャベルや手をつかって作業して
いて、とても大変だったと話していた。伊江
島の飛行場を作っている時に、空しゅうが来
て、壕に逃げてかくれたそうだ。その後、お
じさんが、サバニに、乗って、むかえにきて
くれたそうだ。本島に、もどって、かまにか
くれていると、兵隊が、出て、い、出て、こ
い、なにもしなから、と言って、おばあち
ゃん達は、出て、いった。そのおかげで、助っ

たと言っ ていた。私は、おばあちゃんの話を
聞いて、みんなおひえて、人の言っ ているこ
とが信じられなくなっ たり、自殺した人もい
ると考えたりしたらとてもこわくなっ た。お
じいちゃんやおばあちゃんの話は、みんな助
かっ ていて安心だが、ひひひおじいちゃん
は少しちがっ た。ひひひおじいちゃんは
首里城の地下にある、作戦指令部の防衛隊に
いて、そこで、見はりをして、いる時に、びく
だんが落ちてきて、七くなっ てしまっ たそう
だ。おばあちゃんの家には、ひひひおじい
ちゃんか馬にのっ て兵隊の服をきて、うっ
ている写真がある。ひひひおじいちゃんは
とてもたくましく、生きて帰っ てくるぞとい
うような気がした。

っ 平和とは、あたり前のことができるこ
とだ。そのために、まず相手と知り合うこと
が大事だと私は思う。七十四年前のような、
あの戦争がおこらないように、海が赤くそま
らないように、美しい緑がなくならないよう

に、きれいな青空が黒くそまらないうちに、
私は、この命が尽きるまで、それらを守り続
け、祈り続けたい。

私は思う。みんなが平和を願い、人々を大
切に想うところから、平和になるために一
番大切なことだと。